

特集／文化財保護法五〇年記念

18 [巻頭言]
文化財保護法五〇年に思う

鈴木 勲

16 [解説]
文化財保護法と五〇年記念事業について

文化財保護部

14 [紹介]
京都国立博物館の

五〇年のあゆみと特別展の開催

若杉 準治

12 民俗芸能の

ネットワークを拓げる三つの取組み

城井 智子

10 町並みを文化として守る

―各地で記念シンポジウムを開催―

中嶋 耕

8 地域の埋蔵文化財を守り、

活かす活動を展開

(財)岐阜県文化財保護センター

6 伝統芸能における

伝承者養成の現状と課題

織田 紘二

4 文化財の保存修復の現状と課題

渡邊 明義

ACA NEWS

- 平成12年春・秋の褒章、叙勲受章者が決定……………33
- 重要文化財彦部家住宅主屋ほか
4棟保存修理工事完了……………36
- 「平成12年度我が国の文教施策
―文化立国に向けて―」を発表……………38
- 自宅がキャンパス「放送大学」(募集要項)……………40

イベント案内

- 東京国立博物館「特集陳列 キリシタン関係遺品」/41
- 東京国立近代美術館工芸館「ドイツ陶芸の100年
―アール・ヌーヴォーから現代作家まで―」/42
- 東京国立近代美術館フィルムセンター
「フィルム」は記録する2001 日本の文化・記録映画作家たち」/43
- 第15回「大学と科学」
公開シンポジウム「世界の文化遺産を護る」/44

新国立劇場 スポットライト/45
1月の国立劇場/46
芸術文化振興基金ニュース/47
表紙解説/編集後記/48

連載

- MEDIA ARTS GALLERY ⑥
『老人と海』/20
 - Cross Road
首藤康之さん/21
 - これからのアートマネジメント ②
―アートにおけるNPOの可能性②―/24
 - しんぼん
サンシティ越谷市民ホール/26
 - 日本の伝統美と技を守る人々―団体編②
全国重要無形文化財保持団体協議会/27
 - 地域発 文化で国際交流 ⑥
和歌山県/30
 - こぼれ万華鏡 ②
人間関係と意見の主張/32
- 水谷 修

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、ご質問、文化庁月報の感想などを、ホームページの意見欄や文化庁のウェブマスター宛へお寄せください。
 (ホームページアドレス) <http://www.bunka.go.jp/>
 (ウェブマスターメールアドレス) webmaster@bunka.go.jp

Cross Road



バレエで世界を魅せる

純粋な、より純粋な世界を目指す。日本のバレエを世界に魅せるために、踊ることでどこまで高い芸術を求めていくのだろうか。

首藤康之^{さん}

(バレエダンサー)

日本人と外国の文化

海外のカンパニーで活躍する日本人が増える中、僕は日本のカンパニーにいる理由は、やはり「僕は日本人だから」にほかなりません。東京バレエ団では、世界的な振付家であるモーリス・ベジャールやジョン・ノイマイヤーらと仕事をする機会が多いのですが、彼らは東洋に深い興味を持っていて、僕たちのためにオリジナル作品を作ってくれています。僕自身もそうですが、音楽だったら邦楽よりも洋楽のほうが入りやすいというように、西洋化された生活の中で気づいていなかったり知らなかったりする日本文化がたくさんあります。

彼らは日本の美の本質を捉えて、バレエという手段で表現するのです。それはとても素晴らしいことで、外国のカンパニーにいたら決してできない経験です。

日本人の観客が、「眠れる森の美女」のような題材のバレエであれば日本のバレエ団よりも外国のバレエ団で見るのを好むのと同じように、外国の観客にとっては日本のカンパニーが日本を表現しているものを見たいというのは自然なことではないでしょうか。ヨーロッパに行けば僕たちも外国人なわけですからとても興味をもって見てくれます。だからバ

レエを通して日本の文化をいろいろと見せたいというのはありますね。

東京バレエ団はツアーがとて多くて、本当にいろいろな国に行っているんですが、その土地土地に素晴らしい文化があり、国民性が違っていて面白いですね。同じヨーロッパでも、ドイツ、イタリア、フランスと、観客の反応はとも対照的です。もちろんブラジルなどに行けば、また全く違いますし。その反応の違いを楽しんでいます。

日本人として魅せるバレエ

よく「日本人はなれたダンサー」と評されることがあるのですが、ぼくはまぎれもなく日本人ですし、日本人として表現をしているのですから、そう言われるのは実はあまり嬉しくないんです。それに「日本人はなれ」していて良いと褒めてくださっているのなら日本人よりも外国人のバレエのほうがいいといっているようじゃありませんか？

バレエは輸入芸術ですけど、ただ入ってきたものをそのままやるのではなく、そこに何か日本の文化を取り入れたようなものがあったりします。例えば様式美であればヨーロッパの人にどう対抗してもかなうわけはないんですけど、古典バレエであっても違う表現、別のスタイルで魅せることができれば、

すごく素敵になるのではないのでしょうか。

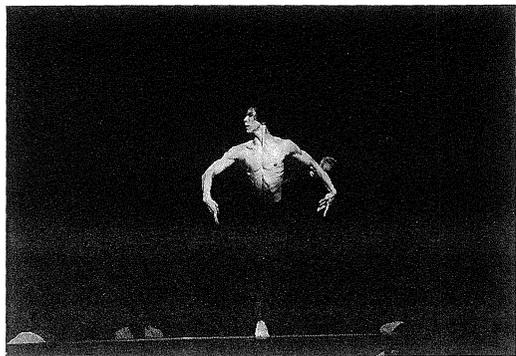
古典バレエ一辺倒だった一〇年前二〇年前に比べると、今はモダンな作品が増えてきました。古典バレエは様式美を見せるもので、言い換えればスタイルやテクニクを見せるものです。振りもかっちり決まっています。観客のほうもここで何をしようかということがわかっていきますから失敗できない。その難しさはありますね。その点でいえば、ベジャールやキリアンの作品ですと、踊っていてとても自由になれます。

モーリス・ベジャールに出会う

僕が東京バレエ団にいる最大の理由であり一番の転機になったのは、やっぱりモーリス・ベジャールとの出会いです。初めてあったのは一九歳のときでしたが、それからはバレエや芸術に対する考え方が本当に一八〇度変わりました。以来、ずっと刺激を受け続けています。

彼はダンサーその人自身の個性をとて尊重してくれて、表現の方法をあえて限定してしまわないんです。ただ、振り付ける。その人自身から自然に出てくる何かを狙っているんでしよう。自分でも気づいていなかったものを、彼によってたくさん引き出し出してもらいました。僕自身は、ダンスによって表現する

しゅう・やすゆき/大分出身。9歳でバレエを始め、15歳で東京バレエ団に入団。弱冠19歳で「眠れる森の美女」に主演、92年のロシア/ウクライナ公演では「ラ・シルフィード」の輝かしい成功により、「理想のダンスール・ノーブル」と讃えられる。93年初演のモーリス・ベジャール振付「M」で強烈なインパクトを放ち新生面を切り開く。以来、「ボレロ」をはじめとするベジャール作品のほか、イリ・キリアン、ジョン・ノイマイヤーなど現代最高の振付家の作品を次々と踊り、国内外で高く評価されている。



インスピレーションは生活の中に

街を歩いていると、いろいろなものが目に入ってくる。いろいろな人と出会う、そんな普段の生活の中で、自然とさまざまな影響を受けています。おいしいものを食べて、普通の生活していると、そのなかで無意識のうちいろいろなことを吸収していて、それが自然にバレエに出てきているんだと思うんです。もちろん美術館で絵を見て何かを感じることは、ある程度意識的な行動といえるでしょうが、何かをつかみたいから意識してどこかに行く、これをする、ということはほとんどしませんね。

ただし舞台はよく見に行きます。実際に舞台を見るのが、自分でチケットを買って劇場に行くのがとても好きなんです。ただ好きだから見に行くんです。それで見たいものが自分にとっていいものであったり、よくなかったりするわけですけど、それはそれでいいんです。

でもバレエはあまり見ませんね。どうしても厳しく見てしまっただけなんです。批判的に見るつもりはないんですけど、やはり

僕自身がダンスを仕事としていて、いろいろな面が見えてしまっただけなんです。だからもつぱら楽しむための劇場通いをしたいと思って、ミュージカルやストリート・ブレイ、歌舞伎、文楽などを見ていますね。とく文楽にはすっかり魅了されていて、通いつめてます。ちょっとした角度や動かし方で人形があんなに表情をもつのかと、本当に感嘆してしまいます。

バレエは純粋な世界

多くの人に見ていただくことも僕はすごく素敵なことだと思っただけですけど、バレエというのとはとても閉ざされた世界で、だからこそある程度美しさが保たれているような気がするんです。僕ですら理解できていないこともたくさんあって、実はそんなに分かりやすい世界ではありません。だから誰にでも見たいとは思わないんです。

ただこれだけは確信をもって言えるのですが、バレエはすごく純粋で美しいものです。言葉を使わないのでどんな国でも通じます。僕自身とても素敵な世界だと思ってやっているので、それを多くの方に伝えていきたいですね。

●秋市堀内地区伝統的建造物群保存地区(山口県)

武家町/昭和51年9月4日選定

伝建制度が制定されて今年で二五年となる。昭和五十一年九月に、最初の重要伝統的建造物群保存地区として七地区が選定された。秋市では堀内地区と平安古地区の二地区が選定され、平成三年に選定五周年をむかえる。

秋市は山口県の日本海に面する城下町で、慶長二二(一六〇八)年に城が完成し、一八世紀初頭には城下町としての規模がほぼ固まる。外堀の内側から中堀の間が「三の丸」で、「堀内」と呼ばれて藩の諸役所や毛利一門や家老等の重臣たちの屋敷が並んでいた。明治維新後、屋敷地の主屋の多くが取り壊され、跡地は夏蜜柑畑などに転用された。保存地区は東西九〇メートル、南北七〇メートルの範囲で、街路に面する土庫や門と夏蜜柑畑が歴史的景観を形成している。地区内には重要文化財の口羽家住宅があり、一般公開されている。また、地区東側に近接しては国史跡秋城城下町がある。

秋市では、伝建地区だけではなく、町全体について、歴史や自然を活かした景観形成を目指して秋市都市景観基本計画を策定している。さらに、近年は城下の港町であった浜崎地区の保存整備を目指している。秋市内には歴史的な建物や史跡が数多くあり、それらを活かしたまちづくりが積極的に進められ、堀内地区はその中心的な存在である。

(文化財保護部建造物課文化財調査官 島田敏男)

編集後記

本年は、二二世紀という新たな世紀を迎える年であると同時に、文化財保護法制定五〇年という大きな節目を迎えました。

法制定以来、文化財を取り巻く社会環境の変化や国民の間での文化財保護思想の普及等に対応して、保護対象の拡大や保護手法の整備が図られてきました。今日、価値

観の多様化や情報化、国際化の進展など、社会経済情勢の大きな変化の中で、国民の文化財への関心や保護意識は一層高まってきました。

二二世紀においても文化財の保護対象の拡大や保護手法の多様化など、文化財保護の一層の充実が求められていくことでしょう。今月号では、全国各地で「文化財保護法五〇年」を記念した様々な事業が地方公共団体や公私立博

物館等で実施されており、これらの事業を通じて、文化財保護の現状や問題点、更には将来展望等を紹介すべく、関係の方々には執筆をお願いしました。本号により、文化財保護への御理解が一層深まることを期待しております。(Y・T)

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、ご質問、文化庁月報の感想などをホームページのご意見欄や文化庁のウェブマスター宛へお寄せください。

(ホームページアドレス)
http://www.bunka.go.jp/
(ウェブマスターメールアドレス)
webmaster@bunka.go.jp

文化庁月報 12月号 (通巻387号)

平成12年12月25日印刷・発行

編集-文化庁
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2
発行-株式会社ぎょうせい
本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 編集 03(3571)2126
販売 03(5349)6666
URL: http://www.gyousei.co.jp
印刷所-㈱行政学会印刷所

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円
年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
㈱ぎょうせい営業部広告課
電話03(5349)6657 (ダイヤルイン)
©2000 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。